
透析施設看護師による維持透析患者に対する 看護支援の実態 —腎移植療法に関して—

阿部愛香^{*}、三浦千織^{*}、伊藤真起子^{*}、伊藤真弓^{*}、
齋藤 満^{**}、佐藤 滋^{***}、羽瀧友則^{**}
秋田大学医学部附属病院第二病棟 2 階^{*}、
秋田大学大学院医学系研究科腎泌尿器科学講座^{**}、
秋田大学医学部附属病院腎疾患先端医療センター^{***}

Nursing Supports Regarding Kidney Transplantation for Dialysis Patients : A Questionnaire Assessment for the Nurses Working in Dialysis Clinics

Aika Abe^{*}, Chiori Miura^{*}, Makiko Ito^{*}, Mayumi Ito^{*},
Mitsuru Saito^{**}, Shigeru Satoh^{***}, and Tomonori Habuchi^{**},
Department of Urology, Akita University Hospital^{*},
Department of Urology, Akita University Graduate School of Medicine^{**},
Center for Kidney Disease and Transplantation, Akita University Hospital^{***}

<緒言>

移植患者は移植待機中、様々な心配や不安を抱えており、精神的援助を充実させる事は非常に重要である。

当院は秋田県内で唯一の腎移植施設であり、年間約20例の生体腎移植を施行している。患者の多くは他の透析施設で維持透析を経て腎移植に至るが、移植待機中の患者に対し透析施設においてどのような看護支援・情報提供が行われているのか把握できていない現状にある。

透析施設看護師による腎移植待機・希望患者への看護支援の実態を知る事で、現状の問題点を抽出し、透析施設看護師と意見交換する事で、より充実した実践的な看護支援を提供できるものと考ええる。今回、我々は秋田県内の透析施設看護師による、維持透析患者に対する腎移植療法に関する情報提供や患者指導の実態、生体腎移植待機あるいは献腎移植希望者に対する精神的サポートの実態を調査した。

<対象と方法>

1. 対象：秋田県内の33の透析施設に勤務し、本研究参加に承諾が得られた看護師210名。
2. 調査方法：独自に作成した質問紙を郵送後回収した。

3. 分析方法：回収したデータを集計し、分析した。

4. 倫理的配慮

対象者に研究目的、方法、調査の協力は自由意志に基づくものであり、いつ中止・撤回しても構わないこと、研究協力を断っても不利益が生じないことを文書で保障した。また、データは個人が特定される事がないこと、データの管理、破棄について文書にて説明し同意書に署名していただいた。

<結果>

1. 対象者の属性

アンケートを送付した看護師210名中168名より回答が得られた（回答率80.0%）。男性15.5%、女性84.5%であり、年代は40～50歳代が中心であった。透析施設での経験年数は、5～20年が半数、5年未満が約4割を占めており、平均7.6年であった。施設毎のスタッフの平均人数は透析医2.0人、看護師9.0人、技師3.8人であった。施設毎の平均人数は維持透析患者数62.4人、腎移植希望者0.6人、献腎登録者2.1人であった。対象者の背景を表1に、透析施設の背景を表2に示す。

表1 対象者の背景

性別	男性	n= 26	15.5%
	女性	n= 142	84.5%
年代区分	20代	n= 17	10.1%
	30代	n= 36	21.4%
	40代	n= 49	29.2%
	50代	n= 61	36.3%
	60代	n= 5	3.0%
	透析施設での勤務年数	5年未満	n= 64
5～9年		n= 50	29.8%
10～19年		n= 35	20.8%
20～29年		n= 11	6.5%
30年以上		n= 4	2.4%
無回答		n= 4	2.4%
平均		7.6年	
看護師歴	平均	22.3年	
移植施設での経験	あり	n= 4	2.4%
	なし	n= 164	97.6%

表2 透析施設の背景（施設毎の平均人数）

透析医の人数	1人	n= 20	60.6%
	2人	n= 6	18.2%
	3人	n= 6	18.2%
	5人	n= 1	3.0%
	平均	2.0人	
看護師の人数	5人未満	n= 12	36.4%
	5~9人	n= 15	45.4%
	10~15人	n= 5	15.2%
	16人以上	n= 1	3.0%
	平均	9.0人	
技師の人数	0人	n= 7	21.2%
	1人	n= 7	21.2%
	2~3人	n= 9	27.3%
	4~5人	n= 6	18.2%
	6人以上	n= 4	12.1%
	平均	3.8人	
維持透析患者数	10人未満	n= 3	9.1%
	10~39人	n= 10	30.3%
	40~69人	n= 11	33.3%
	70~99人	n= 8	24.3%
	100人以上	n= 1	3.0%
	平均	62.4人	
腎移植希望者	0人	n= 21	63.7%
	1人	n= 6	18.2%
	2人	n= 4	12.1%
	3人	n= 1	3.0%
	4人以上	n= 1	3.0%
	平均	0.6人	
献腎登録者	0人	n= 13	39.4%
	1~2人	n= 15	45.4%
	3~4人	n= 3	9.1%
	5人以上	n= 2	6.1%
	平均	2.1人	

2. 「患者より腎移植に関する質問を受けたり、情報提供を求められた事がありますか？」という質問に関しては、約3割の人が経験を有していた（図1）。主な内容としては、「献腎移植の登録方法」「手術内容について」「生体腎移植の手続きについて」、などの移植の流れについての内容が38名、「移植後の生活について」が5名、などであった。23名の回答者が質問の返答に困ったと回答しており、その理由として自身の知識が不十分であるため、と答えた人が19名という結果であった。

3. 「腎移植を希望している患者に、移植に関する情報提供や患者指導を行っていますか？」という質問に関しては、施行している人はわずか4.8%であり（図2）、方法としては「パンフレットを使用」が6名、「医師と共に説明」が5名、「移植コーディネーターに依頼している」が1名であった。指導や情報提供の内容としては、「移植施設について」「ドナーについて」「入院・手術・術後の経過について」、などがあつた。情報提供や患者指導を行っていない理由としては、「十分な知識がない」が64名、「情報提供を求められた事がない」が44名、「必要性を感じない」が14名、「指導する時間やタイミングがない」が7名、「医師のみが説明している」が5名、などであった。

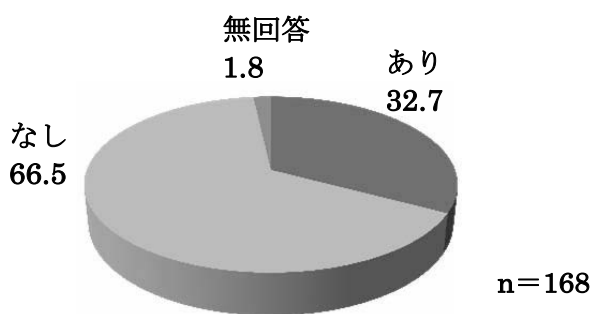


図1 患者からの質問の経験 (%)

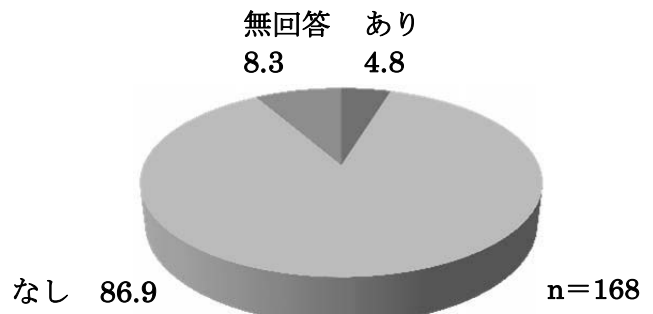


図2 患者への情報提供や指導の経験 (%)

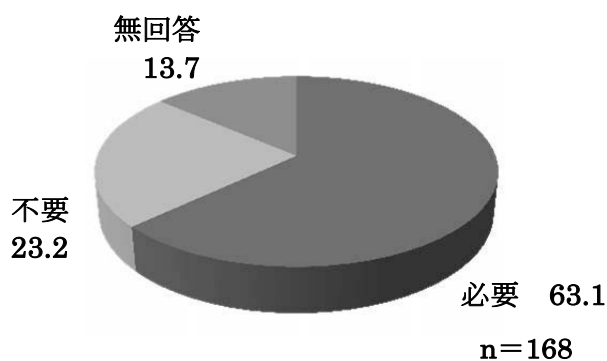


図3 情報提供や指導の必要性 (%)

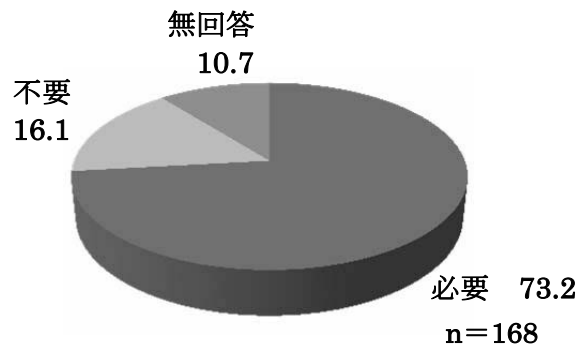


図4 移植病院との連携 (%)

4. 「透析施設看護師として維持透析患者への移植に関する情報提供や指導は必要だと思いますか？」という質問に関しては、必要と思っている割合は63.1%であった（図3）。理由として、「選択肢がある事を知ってもらうため」が23名、「専門職として腎移植に関する知識は必要であるた

め」が3名、「若年層の透析導入が増えているため」が2名、などであった。不要と思っている理由としては、「移植施設で行えばいい」が3名、「医師に説明してもらえばいい」が3名、「透析をしているため積極的にする必要がない」が1名、などであった。

5. 「透析施設看護師として移植施設との連携は必要だと思いますか？」という質問に関しては、約7割の人が必要と感じていた（図4）。
6. 「腎移植に関して知りたい事、あるいは移植施設に求める事はありますか？」という質問では、知りたい事としては、「生体腎移植・献腎移植の手続きの方法について」「手術内容について」「術後経過について」、などがあつた。移植施設に求める事としては、「移植施設の看護師と情報交換をしたい」「レシピエント・ドナーの移植手術を見学したい」「パンフレットを充実させたい」、などの意見があつた。

<考察>

腎移植の情報提供を行っていく上での問題点として、石田らは、透析スタッフは移植患者と接点が少ない、移植の実態を透析患者に説明するのが困難であること、情報提供を行う時間的ゆとりがないこと、などを指摘している¹⁾。今回のアンケート調査で、秋田県内の透析施設においても、看護師始めスタッフの移植に関する知識は十分とは言えず、医師または移植施設に依存している傾向にあり、また、患者の腎移植に関する認知度も低いという問題点が明らかになった。腎移植希望者に対して、移植に関する情報提供や患者指導を施行している透析施設看護師はわずか4.8%であり、腎移植療法に関する情報提供や精神的サポートは十分といえる状況ではないことが明らかとなった。

一方で、透析施設看護師の約6割が情報提供や指導の必要性を感じており、約7割が移植施設との連携の必要性を感じていた。透析施設看護師が、移植に関する知識を獲得できる環境を整備することが急務であり、移植施設・透析施設に勤務する看護師同士での定期的な勉強会や意見交換会の開催、移植手術見学ができるシステムを確立することなどが有効と考えられる。また、腎不全患者に対する腎移植療法の普及・啓発のため、腎移植に関するパンフレットの提供なども必要と思われた。

透析施設看護師の役割として、野口らは、移植患者の治療選択時の情報提供や移植待機時における状態保持の為に、透析施設看護師の役割は重要であると述べている²⁾。移植施設看護師の役割として、佐竹らは、維持透析施設からの情報提供が必要であり、維持透析施設と緊密な連絡をとり、必要な情報を入手する努力が必要であると述べている³⁾。

透析施設看護師と移植施設看護師が各々の役割を再確認し、双方が協力し、連携を強化することにより、腎移植希望・待機患者に関する情報共有が可能になると考える。今回、秋田県内の透析施設看護師が、移植施設に対して、腎移植に関するより具体的な情報提供を求めていること、移植施設看護師との情報交換を希望していることも明らかとなった。

文 献

- 1) 石田恵津子、池田 薫、多比良富美、他：腎移植希望者の術前知識普及をはかるための腎臓内科・透析室の連携、移植27巻：717、1992
- 2) 野口文乃、池田成江、荒川法子、他：透析看護と移植看護の連携強化、それぞれができること、移植44巻別冊1、483、2011
- 3) 佐竹紀代美、鈴木由加利、北畑博美、他：移植施設の透析室における看護の役割を考える―献腎移植患者との関わりから、移植34巻：332、1999